個人の市場価値の向上と生涯成長を支える

NEWS LETTER

EAT
Education for Asian Talents

株式会社人財アジア 定期ニュースレター

vol.05
2019年9月

□ 岡村の最近の注目ニュース　□ ビジネス予備校近況リポート　□ B-EAT 会活動報告　□ What's up?

いつ始めても
遅すぎることはない。

2019/9/17

夢の実現の舞台裏

先日ミャンマーにて、１３０名弱の幹部候補生を対象に、
「グローバルマネジメントとは何か？」「株式投資や会計を学ぶとなぜ良いのか？」
をテーマに５時間に渡り研修を行った。
思った以上の質問で活況となり、３０分延長後、会場都合で強制的お開きとなった。
人財“アジア”を創業してよかった！と心の中で歓喜した瞬間だ。

私が皆さんとシェアしたいのは成功話ではなく、そこに至るまでの試行錯誤だ。

異常気象が常態化しつつある昨今、生徒の皆さんが直接、間接に被害に遭い、ご苦労されている話を耳にする。心よりご快復を祈る。

ありきたりな発想でシンガポールにて研修話を進めたのは数年前だ。現地パートナーとの打ち合わせ中に、細かいお金に関するやりとりから志のずれを感じキャンセルした。自身がなぜ海外に展開するのか目的がぶれていることを反省した。インドにて目を付け、友人にも勧められた研修会社との提携も考えたが、まだ体力の弱かった EAT が取り組むには不確実性が高いと思い踏みとどまった。理念だけでは夢を追えない。韓国やフィリピンにも講演に訪れ色々な人と出会ったが、ひらめきはなかった。昨年ミャンマーに降り立って初めて、この国民と関係を深めたい！と心から感じた。直感といってしまえばその通り。でも、求め続け、失敗し、自社・自分も成長してきたからこそ、ふさわしい出会いを呼び寄せられたとも考えている。紙一重だ。

ミャンマーでの研修という小さな第一歩も、葛藤と学びの連続だった。EAT 理念である“目的を問い続ける”スタンスを、まだ企業の数も少ないミャンマーにて貫いてよいのか？通訳を介することで自分の言葉に思いがのせられないのではないか？等、事前の心配は尽きなかった。結果から言えばすべて杞憂だった。

経済の発展段階こそ異なれど、何のために働くのか？時には振り返って自問自答する大切さの投げかけは、人の心に刺さるのだ。テクニカルな学びも大きかった。ミャンマー人通訳との直前打ち合わせの際、その能力と志の高さに感激した。急遽、文字ずらを追うのではなく、研修エッセンスをとことん伝える方針に転換した。実際の研修で通訳時間が私の語り以上に長かったのは、聞き手の表情を見ながら意訳してくれたからだ。異国の地での研修の成功は、通訳との二人三脚で成り立った。そしてかような場を作ってくれた J-SAT 西垣充社長も、ミャンマーに暮らして２０数年、熱い心の持ち主だ。

念ずれば通ず・・こんな不器用な取り組みを横で見て叱咤激励してくれるのが、今回寄稿くださったジャーナリスト磯山友幸氏だ。

注）この隔月ニュースの内容をさらに充実させ、発信していきたいです。メールアドレス等の変更は総務企画までお知らせくださいね！　（EAT 代表　岡村 進）

「働き方改革」で見えてくる「個人」の能力が求められる時代

経済戦略構想　磯山友幸事務所
硬派経済ジャーナリスト
磯山 友幸

「働き方改革で残業禁止なんですよ」

と言った声をしばしば聞く。電通社員の不幸な過労自殺をきっかけに、日本に根付いている長時間労働を見直すことが「働き方改革」だと思われているフシがあるが、政府が働き方改革を打ち出した本当の理由は別にある。

国内総生産（ＧＤＰ）を増やすには、労働投入量を増やすか、労働生産性を改善する必要があるが、人口減少が本格化する中で、労働投入量、つまり働く人を増やすことは難しい。そうなると、働く人一人ひとりが生み出す付加価値を引き上げる「生産性向上」をしなければ、日本は衰退していくことになる。だから日本人の働き方を根本から変えようというのだ。

バブル崩壊後の「失われた２０年」を超えて、ようやくＧＤＰは増加の兆しを見せている。アベノミクスの大胆な金融緩和による円高修正で、企業収益は過去最高を更新した。空前の人手不足となり、働く人の数は大きく増えた。２００８年でピークを打ったが、逆に働く人は増え、２０１９年になって就業者数も雇用者数も過去最多を更新している。安倍首相が進めた、女性活躍促進で働く女性を増やし、一億総活躍という名で働き続ける高齢者を増やした成果と言えるだろう。

つまり、現在のＧＤＰの増加は労働投入量が増えた結果であって、生産性の向上、本当の意味の「働き方改革」はまだできていない、ということなのだ。

だが、その働く人の増加も先が見えてきた。１５歳から６４歳までの女性の就業率は７０％を超え、６５歳以上で働く高齢者は８００万人に達した。もちろん、ともに過去最高である。だが、団塊の世代が７０歳を超えて働く高齢者の数もそう簡単には増えなくなってくる。女性も同様だ。

ということは、人手不足は今後一段と深刻化するということである。人手が足らない企業は抜本的な働き方改革を迫られる。短い時間でどうやって付加価値を生むか。運輸業や小売業、外食、宿泊といった業種が日本では生産性が低い代表例とされる。こうしたサービス産業では、最終的な商品やサービスの価格を引き上げていくことで、生産性を高め、賃金を引き上げていくことになるだろう。高くても売れるサービスや商品を提供することが第一だ。

ひとりの社員に何から何までやらせる「ジェネラリスト」型から、専門性を求める「スペシャリスト」型へ、求められる人材も変わる。スペシャリストは専門能力を複数の企業で活かす「副業」や「複業」が当たり前になるに違いない。間違いなく「個人」の能力が問われる時代がすぐそこまでやってきているのだ。

B-EAT

ビジネス予備校の OB/OG による地域を超えた繋がり

9 月 20 日に東京と福岡を繋ぐ OB/OG 会を開催予定

↑こちらは、今回の福岡クラス会場。
トヨタ自動車九州が保有する協働協創型コワーキングスペース「TOYOTA KYUSHU Co-Creative Connected Lounge『Garraway F（ギャラウェイ エフ)』
※今回はご好意で無償提供頂きました。

テーマは、「働き方改革」

下記にて事例発表及び議論を行います。

・人手不足への対応
　①テレワーク
　②副業・兼業
　③多様な人材活用（女性・外国人など）
・東京と福岡での働き方改革の影響の相違
・これからの働き方

東京は、EAT3 期生幹事　長澤氏
福岡は、EAT2 期生幹事　藤本氏を中心に企画が進んでいます。
他の幹事の皆様もお忙しい中にも関わらずご準備下さりありがとうございます！

What's up?

山川　新太郎
Yamakawa Shintaro
EAT ビジネス予備校福岡クラス
2 期生
株式会社アクタ
製造部管理職

弊社は、プラスチック食品容器メーカーです。EAT 卒業後、生産現場だけでなく、社内アカデミーの管理者を任されるようになりました。製造技術をデジタルコンテンツ化し、視聴や議論による学びの仕組みづくり、教育循環を鼓舞しております。厳しいことでも本音が言い合える、強い現場を目指し、社内研修の講師も行っています。

EAT 株式会社人財アジア
〒100-0005 東京都 千代田区丸の内 1-8-3 丸の内トラストタワー本館 20 階
［TEL］03-6300-6460　［Mail］info@eat-star.asia

What' s up?　に掲載してみたいという EAT の OB/OG、現役生の方を募集しています。
ご希望の方は事務局までお問合わせ下さい。